

「学校教育目標」と「令和2年度重点目標」に向けて

学校教育目標：自主・自立・協調

重点目標：社会を創る自立した生徒の育成 ～授業づくりの実践と教育課程の工夫・改善を通して～

豊かな人間性

聴くことを大切にされた静かな学校
人権を意識した生徒指導
特別活動の充実(生徒会活動等)
道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞活動の充実

健康・体力

附中スポーツフェスティバルの実施
年間を通じて、スポーツに親しむ環境づくり
体力テストの分析及びその結果への対処

資質・能力の育成

何ができるようになるか

○育成を目指す資質・能力

既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりすることができる。
知識及び技能を活用して課題解決することができる。
自らの学習状況を把握し、自らの学習を調整しながら粘り強く学ぼうとしている。

何が身に付いたか

○学習評価の充実

生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえ、単元の目標を設定する。
単元の評価規準を設定する。
単元の指導と評価の計画を立てる。(評価場面、評価方法など)
観点別評価を行い、生徒の学習改善、教師の指導改善につなげる。

生徒の実態

知的好奇心、学習意欲が高い
学習効力感や自己肯定感が低い
実社会と関わる経験が少ない

子供一人一人の発達をどのように支援するか

○子供の発達を踏まえた指導

一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導や支援
教職員の情報共有や外部機関との連携により、チームで支援

目指す生徒の姿

より高い価値をめざし
たくましく実践し
ともに向上する生徒

何を学ぶか ○教育課程の編成

学習の基盤となる言語能力の育成を図る。
各教科等の特質に応じた見方・考え方を学びの過程で働かせ、各教科等の資質・能力の育成を図る。
小学校中学校のつながりを意識した教育課程の編成を図る。

どのように学ぶか ○指導計画の作成と実施

学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場を設定する。
対話によって自分の考えを上げたり深めたりする場を設定する。
生徒が考える場面と教師が教える場面を設定する。

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

学校研究、校内研究の充実 研修の機会の確保 学びの連続を意識した幼小中連携 生徒の学習を支援する大学や外部機関との連携
温かい聴き方・話し方のできる学年・学級経営 附中スクールボランティア制度の活用 家庭との連携・協働(二者、三者面談の実施)
教職員の業務の見直し 校務支援システムの導入(あゆみ、諸帳簿類)

安心・安全を守る

学習環境の整備、教職員の危機管理能力の向上
不登校及びいじめ等による問題への対応
防災、安全教育の推進

開かれた学校作り

茨城大学、県教委、常磐市民センターとの連携
授業研究会、新入生対象学校説明会等の実施
学校ホームページ、各種たよりの充実